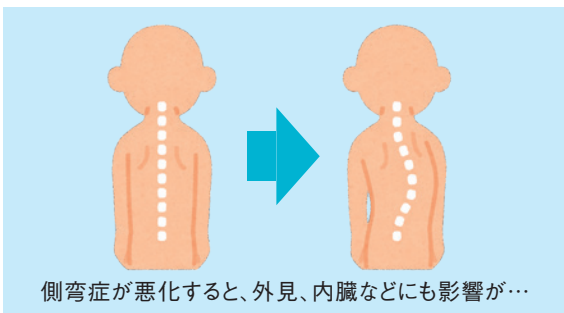


子どもの側弯症と手術支援ロボットアームシステムの導入について

本院整形外科では、子どもの脊柱側弯症手術に手術支援ロボットアームシステムを導入しています。脊柱側弯症とその手術について、整形外科の山下医師にお話を伺いました。

脊柱側弯症とは？

脊柱側弯症(以下「側弯症」という)は、背骨が曲がってしまう病気です。側弯症には原因などによって、いくつか種類がありますが、子どもの側弯症では、思春期に発症する思春期特発性側弯症が多く、特に女の子に多く発症します。特発性側弯症の明確な原因については不明ですが、近年発症に関係すると思われる遺伝子が発見されています。子どもの側弯症は、初期では痛みなどの症状がないことが多くなかなか自分では気づきにくいのですが、ご家族に側弯症の方がいる場合は、念のために専門の医療機関で調べたほうがよいでしょう。



側弯症が悪化すると、外見、内臓などにも影響が…

側弯症の治療

側弯症の治療には、進行を防ぐための装具治療と、進行防止と矯正を行う手術治療があります。側弯症の程度が軽い場合はその大部分が経過観察となりますが、程度が軽くても進行の可能性がある場合、曲がりの程度や年齢、骨の成熟度などを考慮して治療を検討します。側弯症患者さんのうち手術の必要がある方は少なく、早期発見ではその可能性もさらに低くなりますが、背骨の曲がりが強くなってしまった場合、そのまま放置すると立つことも困難になるため、脊柱矯正固定術という手術を行う必要があります。

本院に来られる患者さんは、症状の進んだ方が多く、去年は子どもの脊柱矯正固定術を約30例実施しています。子どもを対象とした脊椎外科医は全国的に少ないこともあり、本院には徳島県内だけでなく、四国はもとより、九州などからも患者さんが来院されています。

脊柱矯正固定術は曲がった背骨の1つ1つにスクリュー(ボルト)を設置し、それをロッド(金属の棒)に締結することで正常な位置・角度に矯正して固定するものです。手術を行う患者さんの多くが学生であるた

■説明は
徳島大学病院
整形外科 外来医長
山下 一太
(やました かずた)

■お問い合わせ先
整形外科外来
Tel: 088-633-7237
※整形外科の受診には、
紹介状が必要です。



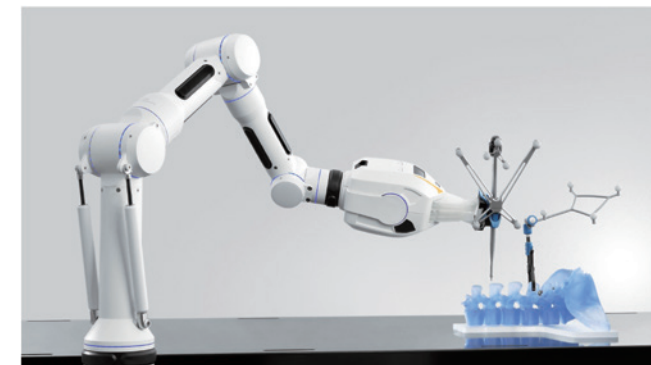
患者さんへひとこと

背骨への手術について、怖いと感じられる方もいらっしゃいますが、手術には適切な時期があります。それを逃さずに、患者さんに最適な手術を受けていただけるよう、我々は準備をしています。

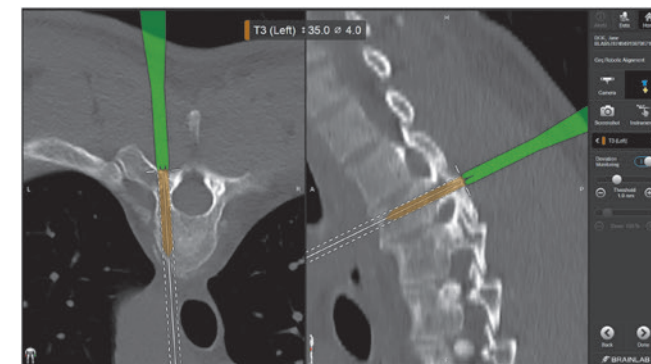
め、本院では夏休みなどの長期休暇の際に手術を多く行います。手術に係る標準的な入院期間は2週間で、手術から3週間程度での登校が可能です。

手術支援ロボットアームシステムの導入

本院整形外科では、令和4年4月より背骨に係る手術を支援するCIRQ(サーク)ロボットアームシステムを導入しており、子どもの側弯症手術にも適用しています。CIRQロボットアームシステムでは、スクリューを設置するための骨孔をあける手助けをしてくれます。子どもの骨は小さく、また背骨の中には脊髄が、そしてその周辺には大動脈が通っているとともに、手術を要する骨には変形が多く見られることもあり、難易度の高い手術となります。従来、手の感触と経験を頼りに手術していたところを、術中CTの情報に元にした手術支援ロボットアームを使用することで、手ぶれがなく、ナビゲーションガイドで狙った位置に正確に骨孔をあけることができるため、より安全・確実に手術を行うことが期待できます。



CIRQロボットアームシステム
【画像提供: プレインラボ社】



骨孔をあける位置を術中のCT画像で確認しながら手術を行います。

【画像提供: プレインラボ社】